

2018年1月号

特集：五感を操るVR技術・・・だまされる脳

ヘッドマウントディスプレイ（HMD）の映像を見ながら現実では狭い室内を無限の空間に錯覚させる技術やHMDをかぶり、画面内の街で猛スピードの急上昇や上空からの落下の感覚を体験できるアトラクション施設が池袋のサンシャイン60展望台や越谷市のイオンレイクタウンVR(Virtual Reality) センターなどで大変人気であるという。コンピューターの処理能力が飛躍的に高くなり、風になびく髪の毛の動きや、小鳥の鳴き声など方向性を持つ音と周囲の虫の音を一緒に表現できる立体的な音作りができるようになってきているという。

全天周カメラを使えば、現実の景色をVRに簡単に取り込み、最新のHMDでは頭の向きや位置を30個以上のセンサーで追跡、激しいスポーツを楽しんでも視界は揺らがなくなっているらしい。人間の五感のなかでは扱いやすい視覚と聴覚の研究が先行してきているので、視覚と聴覚を中心に、どんな映像や音楽も光と音の組み合わせによってより現実化できる。今回は視覚聴覚に加えて、触覚や味覚へも挑戦してみたい。

No.	タイトル	執筆者
1	特集のポイント	OplusE編集部
2	五感を操るVR技術 総論	東京大学
3	無塩なのに塩味を感じさせる電気味覚	東京大学
4	3D触力覚技術	産総研/ベンチャーミライゼンス
5	重要文化財建物の立体映像体験	凸版印刷
6	3DVDR撮影（ステレオ360度撮影）の手法	ステレオアイ
7	頭部電気刺激で5感を生成!?	大阪大学

※特集予定は都合により変更になる場合があります。詳細は営業担当にお尋ねください。

発行日：2017年12月25日

申込締切：2017年11月27日

原稿締切：2017年11月28日